



くにびき通信

2025年度 第3号

(5月15日～6月13日)

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

はじめに

6月に入り、夏のような暑さがやってくるのかと思ったが、センターにいとそんな暑さは感じるこゝが無く、過ぎしやすい日々が続いている。雨も降りそうで降らない毎日。そんな毎日だが、私には心配していることがある。畑である。昨年は4月から割と暑い日が多かったように思えた。長野から来たばかりの私にとって、島根はやっぱり暑いとこなんだと長野より季節が1ヶ月ぐらい進んでいると思った。畑も、長野でやっていた頃より何でも早く、1年やってみてやっぱり暖かいところだからそれで大丈夫だと思っていた。しかし、今年はどうだろう。霜が降りるわけではないが、朝晩寒い日が最近まであり、なかなか暑い日が続かない。そのせいか、苗がいつまでたっても小さくなかなか成長しない。そんな苗を見ながら、何がいけないのか、気候なのか、植え方なのか、肥料が足りないのかと、ハラハラしている。もう少し暑い日が続けば伸びてくるのだろうか。どんな畑になるかこれからも気が抜けない。

子ども達も2か月を終え、生活にも慣れてきた様子。少し気の緩みも見え生活がだらけてきていることもあれば、ふと「少し家に帰りたくなっちゃった」という子も。自分で決めてきた道だけに頑張っているが、ふと慣れてきたころで親を思い出した子どもの当り前な姿に愛おしさを感じた。きっとここを乗り越え学園生はさらに大きく成長していくのだろう。1学期も残り1カ月半、子ども達の楽しみにしている海の活動ももうすぐそこ。寂しさを吹き飛ばすぐらい一緒に楽しもうと思う。

大田市山村留学センター
指導員 吉澤 かおり

活動カレンダー

5月15日(木)	センター入り	25日(日)	上立石交流会
17日(土)	畑作業	27日(火)	農家入り
18日(日)	ボッコ釣り	6月 5日(木)	センター入り
24日(土)	AM: 田車押し PM: 1学期誕生日会	7日(土)	裏山キャンプ
		～8日(日)	

畑作業 5/17 (土) 曇り



1 日グズついた天気のため、雨が降らない時間を見て短時間で畑作業をしました。この日は、新入園生でジャガイモの芽かき、土寄せ、まだ残っていたサトイモ植えや、ラディッシュの芽かきをして、継続生は、鳥よけの糸を畑の周りに張る作業をしました。黙々と作業をして、終わった子から自分の My 畑の手入れをしてこの日は雨の合間の短時間で終わりにしました。



ボッコ (かさご) 釣り 5/18 (日) 曇りのち雨

比較的海の磯で簡単に釣りやすいというボッコを釣りに行きました。ボッコとはカサゴの事で、島根県ではカサゴの事をボッコと呼ぶそうです。釣り好きな学園生が多いようでこの日を楽しみにしている様子でしたが、天気が悪かったため土曜日にはミーティングと道具の使い方を学び、日曜日に釣りに行きました。当日の朝、雨はあがり少し肌



寒くはありましたが、いつもより少し早く起き、朝食のお弁当を持って出かけました。波が高く、もともと予定していた釣り場を変更して、波止の内側で釣ることになりました。最初、なかなか思うように魚がかからなかったのですが、釣れそうなポイントを教えてもらって糸を垂らすと、1人かかり、2人かかりと徐々に連れていき、最後はみんな釣ることが出来ました。1匹しか釣れない子もいましたが、ほとんどの子が2~4匹、多い子で6匹釣る子もいました。



釣った魚はセンターに持って帰り、鱗や内臓の取り方、三枚おろしのやり方などを指導員に教えてもらいながら、自分たちで捌きました。今回は煮つけ、唐揚げ、骨せんべい、あら汁にして、夕食にいただきました。



田車押し 5/24 (土) AM 雨

雨が降る中、徳原の田んぼで生えてきた草をとるために田車を押しました。寒くて大変でしたが、一人1台田車を押して作業をしました。押した後は、しっかり雑草がとれて田んぼもきれいになりました。終わった後は、少しばかり植え直しもしました。



1 学期誕生日会 5/24 (土) PM 雨

この日は1学期に誕生日を迎える7人のために、誕生日会を行いました。誕生日会は、準備から当日の進行までみんなで係を分担してやります。今年も料理係、レク係、飾りつけ係に分かれてそれぞれ準備に取り掛かりました。食事係は献立作りから始まります。誕生日の子に何が食べたいか聞いて、自分たちでできることは何かを話し合いながら決めました。今回は、餃子にたこ焼き、スティックサラダ、餃子スープ、フルーツゼリーを作りました。少人数でしたが、慣れた手つきの子が多く順調に進みました。餃子は大量に包



んだので、他の班の子も手伝いに来てくれました。レク係はみんなが楽しめそうなゲームを考え、飾りつけは会場のセッティングをしました。恒例のくす玉も準備し、今年は上手に割ることが出来ました。

当日は、まずレクリエーションとしてかくれんぼをしました。5回戦ぐらいやったので、最後の方は「もう隠れる所がないよ」といいながらも、みんな全力でかくれ

んぼを楽しみました。その後、夕食作りと会場セッティングが行われ、誕生日会第2部が始まりました。色んな種類の餃子やアツアツのたこ焼き等みんなで美味しいご飯をたくさん食べました。食事が終わって片付けた後には、レク係が企画した肝試しが行われ、脅かし組みと肝試しに挑戦する組みに分かれて、真っ暗なセンターでもう一盛り上がりしました。最後には、誕生日の人たちに向けてお祝いの歌を歌いくす玉を割り、美味しいデザートを食べ、1学期の誕生日会は幕を閉じました。本当はお祝いメッセージをみんなで送る予定でしたが、時間が無くなって出来なくなってしまったため、1学期の終わりごろにやることを約束して終わりました。



上立石交流会 5/25 (日) 雨

センターが建っている所は上立石自治会の中にあります。この日は、この上立石自治会の交流会が行われました。例年は、外でグランドゴルフをしています。この日は生憎の天気だったため、山村留学センター内に簡易のコースを作って行いました。まずは、一緒にやる班ごとに分かれて自己紹介をしました。名前、出身地などの他に、好きな食べ物や好きなアーティストなども一緒に発表することになり、普段なかなか会話をしたことが無かった地域の方と、好きな歌手の話や食べ物の話で少し盛り上がっていました。その後、パター対決をして順位を競いました。子どもの部、大人の部と分かれて最後は、みんなの見ている所で決勝戦を行い順位を決めたので大盛り上がりでした。

終わった後は、みんなでお弁当を食べたり、地域のお母さんたちが

持ってきてくれた漬物などを頂いたり、この日の特別ゲストの豆腐屋さんが持ってきてくれた豆腐を食べたりして交流を図りました。豆腐屋さんからは豆腐の話等も聞けました。

最後に表彰式を行い順位ごとに豪華景品をもらって終わりました。生憎の天気でしたが室内でも十分に地域の方々と楽しい時間を過ごせました。



裏山キャンプ 6/7(土)～8(日) 晴れ

デイキャンプに続き、2回目となるキャンプ活動。今回はいよいよテントを使って裏山で一泊します。炊事はバディとソロの選択制にしたところ、8人中5人がソロに挑戦しました。



新入園生の小学生3人はバディで行いました。初日の午前にはテントの建て方を練習し、午後から裏山に出発しました。到着したら、まずはテントを建て、かまど作り、火おこし、調理と夕食に向け準備を進めていきました。ソロを希望した学園生は、人と協力できない分、薪集めや調理の下ごしらえなど、先を見越しながら段取りよく作業を進めていきます。バディになった小学生たちは薪集めや調理など役割を分担し、それぞれが協力して作業を進めていました。



火おこしでは、自分で拾った石英を火打石にし、着火を成功させている子がいました。空き缶などで工作した自作のミニストーブを持ち込んで、焚火にプラスして調理をした子もいました。小学生バディは、薪集めの途中に見つけたキイチゴを集めて、デザートを追加していました。畑で採れたラディッシュを持ってきてサラダやおかずに使っている子もいました。全員が無事火おこしに成功し、美味しい夕食を食べることができました。夜は焚火を囲んでスモアという焼いたマシュマロで作ったおやつを食べながら楽しいひと時を過ごしました。二日目は通学路清掃のため、みんなで集まってパンとスープ朝食を済ませ、清掃に参加しました。清掃後は、キャンプを撤収し、使った道具を丁寧に掃除し、片付けを済ませました。着実に実力をつけた充実したキャンプになりました。



西村崇司のつぶやき

＼しからない しかれない／

ときにギョッとしたことに出くわすことがありますよね。わたしの場合、昨年、車中のラジオでの短歌選評が流れていた時もそのひとつです。テーマは「さぼる」。「さぼれない 人から先に 死んでゆく 吸い殻だけが いつも正しい」という句に思わず車を停めてメモしました。吸い殻といえばタバコ。さぼってタバコばかり吸っている、という常套句があるようにさぼるとタバコは親和性が高いのでしょうか。同じタバコ吸いでも吸い殻をみればその人の命の長短や人となりがわかるよ、と作者は言っていますが、この句には不思議な魅力を感じていてこれからも長く付き合います。

さて、この句の初句は「さぼれない」ですが「さぼらない」であつたら印象はずいぶん変わります。日々の生活のなかで「しからない」「しかれない」大人がずいぶん増えてきているように感じているので、「ら」と「れ」の一語でずいぶん変わってきます。背景として、日々の生活のなかで「しかる」「しかられる」ということが極端に少なくなり、いつの頃からか「叱る(しかる)」という言葉が「指導する」に変わってきたのでしょうか。とくに、子どもが何度言っても直さないときや悪いことをしたときに、大人が子どもに「叱らない」場面が多く「指導する」行為に置き換わっているように感じます。指導という概念にとらわれ、「しからない」大人ではなく「しかられない」おくびょうな大人に変わってきているのではないかと思う場面さえあります。昭和50年代(1975年代)頃まで子ども時代を過ごした方ならほとんどが、指導とは「おしえる」「しかる」「ほめる」の3本柱だと思っているはずです。わたしだけでしょうか。わたしにも、本当に悪いことをしたときに親や先生などからこっぴどく叱られ、他人には言えないそのてん末は今でも鮮明に覚えていて「これだけはやってはいけない」「これだけは直そう」という人生訓がありますが、今の子どもたちはそういった経験があるのでしょうか。叱るときにはリスクとエネルギーが必要ですが、叱れない大人にはなりたくないと思っています。

「くにびき通信」2025年度 第3号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センター バックナンバー
公式ホームページ



〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp